



加吉だより

加古小学校通信
令和5年3月号
No.41 (314号)

「チーム担任制」を取り入れる意味

校長 吉田 博明

先日は、「チーム担任制アンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。6割を超える肯定的な意見をいただきましたので、来年度はさらに課題を改善しながら取り組みを進めていきたいと考えています。

みなさんからいただいた意見の中で、「チーム担任制をするメリットがわからない」や、「中学校のように教科担任制でいいのでは？」というものが多かったので、それにお答えする意味で、なぜチーム担任制に取り組むのかについてお話したいと思います。

<一番傷ついているのは子どもなんです>

今年の1月、東京都杉並区の小学校の校長先生が、チーム担任制の視察に来られました。その学校は各学年2クラスで、加古小学校より少し規模の大きい学校でした。その学校では、ここ数年、毎年担任教師が休んでしまう事態が続いているそうです。何とかしようと、いろんな方法で取り組みますが、なかなかうまくいきません。そこで、「チーム担任制」ならこの事態を改善できるのでは、と思い視察に来られたのでした。

担任が休んでしまったクラスには、いろんな教師がサポートに入ります。でも、とても大変なのだそうです。校長先生が話されました。「担任の教師が休んでしまって、一番傷ついているのは子どもなんです。そのケアをするのにとっても多くの時間が必要なんです。」と。

<みんなが安心して過ごせる環境が必要>

学校運営をしていくうえで、常に最悪（学級崩壊）を想定して進めていくことが必要だと考えています。もし、「学級崩壊」を起こしてしまえば、傷つくのは子どもたちです。「みんなが安心して過ごせる環境(学級崩壊を起こさない環境)」を確保しなければなりません。

「チーム担任制」は、複数の教師が関わることで、児童の多面的な理解につながっていると感じています。みなさんの意見でも、複数の教師が関わることには肯定的な意見が多数ありました。でも、複数の教師が関わるだけなら、中学校のような教科担任制で十分ではないか、という意見もありました。

<「学級崩壊」が最初に起こったのは、中学校>

私が中学教師になった40年ほど前、全国の中学校で「校内暴力」や「学級崩壊」が広がっていました。そう、学級崩壊が最初に起こったのは、教科担任制をしている中学校だったのです。教科担任制は、児童の多面的な理解はできますが、みんなが安心して過ごせる環境（学級崩壊を起こさない環境）を作るには、十分ではないということです。

<学級担任の影響力>

学校では、たくさんの教師が協力しながら教育活動を進めています。「学級崩壊」の兆し

が現れたクラスには、いろんな教師がサポートします。学級崩壊にはいろいろな要因がありますが、その中の一つが、担任と児童の人間関係です。人間関係がうまく築けないと、なかなか好ましい学級経営ができません。それは教科担任制の中学校でも同じです。小学校でも中学校でも、毎年、その担任のカラーが出た（その教師のクラスらしい）クラスになります。それほど、学級担任の影響力は大きいのです。

<担任が交替する意味>

担任と児童の人間関係に問題があるなら、その人間関係を改善するしかありませんが、それはとても困難なことです。大人のいろいろな職場でも、一番の問題は人間関係だと言います。大人でも改善するのが難しいのですから、小学生ならなおさらです。担任と児童という固定された人間関係の中で、何とかその関係を改善しなければなりません。それならば、担任を交替制にすればいい。そうすれば、担任も児童も、自然と関係をリセットでき、学級崩壊も防げるのではないかと、というのが「チーム担任制」を考えた始まりでした。

<「ベスト」ではないが「ベター」な選択>

アンケートの意見の中には、「一人の担任の先生の方が安心できる」や「子どもは内気なので先生と打ち解けるのに時間がかかるから、このシステムは子どもに合っていない」との意見もありました。いろんな人がいて当然だと思いますから、その児童にとって、担任が短期間で替わるのはしんどいシステムなのかもしれません。

もちろん、これまでのように、一人の学級担任の教師と深い人間関係を育み、様々な教育活動に取り組むことが、どれほど大きな教育効果を上げるのかは十分理解しています。そして、それが「ベスト」だとも思います。しかし、それは『すべてのクラスに完璧な担任の教師を配置できるという条件』ならば、です。教師の指導力に差があっても学級崩壊の要因になると言われています。学校では、教師の年齢や経験年数に差があるのが当然ですから、その条件を満たすのは不可能だと言えます。しかも、良い関係を築ければ良いですが、そうでないなら、児童にとっても教師にとっても、とてもつらい一年間を過ごさなければなりません。「ベスト（最善）」が無理ならば、少しでも学級崩壊を起こしにくい「ベター（より良い）」なシステムを、と考えたのが「チーム担任制」です。

<年数がたつほど効果が現れるシステム>

なかなかこのシステムに慣れない児童には、今はしんどいシステムかもしれません。しかし、来年度もこの同じシステムを続けていくなら、ほぼ今年度と同じ形で始めることができます。しかもチーム担任を続ける教師の児童理解は、今年度にプラスされて毎年増えていきます。「学級担任制」は一年ごとにリセットされ、毎年一から関係をつくっていかなければなりません。が、「チーム担任制」は、少しの教師の異動はあっても、同じ教師が引き続き担任をしていくと考えると、今は慣れない児童にとっても、年々しんどさが軽減されていき、二年三年と時間がたつほど、よりその効果が現れるシステムだと思います。

今回いただいた多くの課題の解決に向けて教職員一人一人が常に意識し、すべての児童が安心して過ごせる環境づくりのために努めていきます。さらに児童にとって効果的な取組になりますように、保護者の方々のご理解、ご協力をよろしくお願い致します。